

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【善前小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	算数では、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れてきつつある。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。また、次年度の学力向上目標としては、国語の主語・述語に大きな課題が見られることから、朝学習となる基礎・基本の時間を活用して、主語・述語の理解を全学年で重点的に取り組み、R6年度の市学力・学習状況調査等で検証していきたい。
思考・判断・表現	「基準量と比較量に着目し、式にあう問題を選ぶことができるか」を問う問題で、5・6年生の正答率が低い。基準量と比較量を捉えられるように、グラフや表などの資料を活用したり、実際に書いたりする学習を通して、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきたい。各教科の授業でも、資料をもとに自分の考えをまとめる活動を行ってきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「授業で学校の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていくか」の質問項目において、自分たちで課題解決を進める授業を行い、今後も肯定的な回答の割合90%以上を維持し、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より1pt向上させる。当該学年で習得する漢字・計算を確実に習得させる。(自校テストで80%以上)	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。「主語・述語の関係を理解させるため、習熟プリントを用意し、日常的に取り組ませ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」の平均無解答率を1割下げる。R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果より1pt上げる。	⇒ 児童が、必要な情報を読み取る力をつけるために、複数の資料から、必要な資料を選択し、課題解決につながる授業を行うよう授業改善を進める。活動の中にグループで協働的な学びを行い、自分の考えをグループや全体で表現することができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 授業において、児童が課題解決のために、互いの考えを交流する時間を作り、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。また、授業中に自己の振り返りができる時間を設ける。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査では、R4年度に課題が見られた「知識・技能」において、国語の平均正答率は-5pt、算数は+2ptであった。ドリルパークを活用した漢字や計算の反復練習の習慣化により、特に算数で自校テストで伸びが見られた。算数の「知識・技能」小3+3.2pt小4+3.7pt小5+4pt、小6+0.5ptであった。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より「思考・判断・表現」の無解答率は、R4年度と比較すると国語では、-4pt、算数では-1ptとなり、無解答率が減少し、目標値を達成した。R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果より1pあげることができなかった。どちらも60%であった。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「授業で学校の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていくか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は90%以上。授業で学びを交流する場をしっかりと設定し続けたことで目標を達成できた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、+2pt、算数-2ptであった。算数の百分率で表された割合について理解しているかを問う問題で解答類型を見てみると、数字の組み合わせが変わると割合が30%になるものを正しく選ぶことができない児童が見られた。
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」領域において課題が見られた。インタビューの様子を話すための原稿を作るという問題で、無解答率が全ての問題の中で一番高かった。話を聞く時には、話の内容を捉えるとともに、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるような活動を取り入れていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目の、肯定的な回答は91%で目標値を上回った。今後も「自分の考えを深める、広げる」ということは具体的にどういうことを意味するのか、授業で取り上げていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より、国語-5.8pt、算数+3.2ptであった。国語の「主語・述語の関係を理解する問題に大きな課題が見られた。算数では、「単位の関係についての理解」「四角形の定義の理解」に課題が見られた。「授業の内容がよく分かる」と答えた児童は、国語・算数ともに、肯定的な解答の割合が80%以上と高い傾向が見られた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より、国語-11.5pt、算数+6.9ptであった。国語の「文の中の主語と述語の関係を理解する」問題に大きな課題が見られた。算数では、「整数倍にあたる二つの数量間の場面と図を関連付けること」に課題が見られた。「授業の内容がよくわかる」と答えた児童は国語・算数共に肯定的な回答の割合が90%以上と高い傾向が見られた。
小5	国語では、「主語・述語の関係を理解する問題に課題が見られた。算数では、「基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶこと」に課題が見られた。昨年度課題が見られた示された場面において必要な数量を選び立式する問題では、R4年度より、正答率の上昇が見られた。今後も場面を捉えさせて立式することを大切にしてい	小6	算数では、「基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶこと」に課題が見られた。社会の「土地利用の変化に着目して、市の様子の変化を考えることができる」問題では、正答率が90%以上で、普段から自分で資料を読み取る活動を重視した成果が見られた。教科への理解度について国語・算数・社会で90%を超え、昨年度以上の結果となった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 算数で課題の見られた百分率や分配法則など、知識を問う問題について、ICTを利用して個別最適な問題練習が繰り返しできるようにする。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、相手の考えを理解した上で自分の考えを書いてまとめるという場面を組み入れた授業を計画し行う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 自分の考えの深まり、広がり意識できるように、国語・社会・算数のパートに分かれ研究授業を行い、考えを広げ、深める支援を行っていく。